

# 土木女子増、高齢化など対応

たかがトイレというなかれ。排泄のため、日常生活で不可欠な設備だ。その機能や使い勝手は暮らしを左右するだけに、家庭用から仮設までトイレはより快適に進化を続ける。最新のトイレは、工事現場への「ドボジョ」（土木女子）への進出など社会的ニーズへの対応も目指している。

（寺田理恵、写真も）

## ピンクで鏡付き

11月中旬、最新トイレが集められた東京ビッグサイト（東京都江東区）の「第1回トイレ産業展」会場でひとときわ、目を引いていたのはピンクの仮設トイレ。写真①。「ドボジョ」「けんせつ小町」と呼ばれ建築・土木業界で働く女性の増

## 家庭用、仮設…最新トイレ事情

加が見込まれるのに対応し、仮設トイレメーカーの日野興業（千葉県市川市）が提案した。同社の担当者は「現場では女性用のトイレや更衣室が少ないといった問題が指摘されている」と需要を見込む。

加が見込まれるのに対応し、仮設トイレメーカーの日野興業（千葉県市川市）が提案した。同社の担当者は「現場では女性用のトイレや更衣室が少ないといった問題が指摘されている」と需要を見込む。

## オストメイト向け

ユネスコの世界遺産に今年登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」と関わりのある新製品は、オストメイト（人工肛門・人工膀胱保有者）用の便座②、同③。

開発したのが、平成17年まで富岡製糸場のオナーとして、操業停止後も建物や機械を守り続けてきた織維メーカーの片倉工業（東京都中央区）。オストメイト用の下着を15年前から手がけており、事業をトイレにも広げた。来夏発売予定の温水洗浄機能付き（予定価格7万5千円）は、前方が広く開いた前広便座で、パウチ（便や尿をためておく袋）処理を座ったまま行うのに十分なスペースを取った。

ユネスコの世界遺産に今年登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」と関わりのある新製品は、オストメイト（人工肛門・人工膀胱保有者）用の便座②、同③。

担当者は「通常の便座だと中腰でパウチ処理を行うので、足腰への負担や排泄



## 「おもてなし」を意識

トイレ産業展では、6年後の東京五輪での「おもてなし」を意識し、オフィスや商業施設向けトイレが多く登場した。中には2012年ロンドン五輪のときに飲食コーナーに設置されたというトイレも。主催した日本能率協会（東京都港区）によると、東京五輪に向け飲食店や小規模施設の改装需要が期待され、トイレに関心が高まっている。

トイレを快適に保つため、ウイルスも除去できるという除菌消臭剤や、悪臭の原因となる尿石の付着防止剤などトイレ周りのグッズも進化。また、水洗トイレが使えなくなる大災害時に備えた非常時用トイレが改めて注目された。

物が跳ね返る恐れがある。前広便座は座っても処理がしやすく安心」と説明する。大腸がん患者の増加に伴い、オストメイト人口は増加傾向とみられ、ニーズは高まりそうだ。

「好きな場所に、もう一台」とアピールするのは、仏ポンプメーカーの日本法人、エス・エフ・エージャパン（中央区）。便器の後ろに設置した装置（工事代、便器代別約15万円）④で便やトイレレットペーパーを細かく粉砕し、細いパイプを経て排水管へと送る仕組み。大がかりな工事をしなくても、寝室のベッド横に水洗トイレが設置できるという。

ポータブルトイレのような使用後の後始末が要らず、介護を必要とする人が使う場合は介護者の負担軽減にもなる。同社の担当者によると、欧州では介護に限らず、ビル内の店舗にトイレを増設する場合など幅広く使われている。「年月を経た石造りの建築物が多い欧州では、壁や床を通す配管工事に制約があるので、この装置がホームセンターで売られています」

トイレの機能の進化は、暮らしの変化と密接に結びついていくようだ。